

行政視察報告書

令和7年8月8日

視察委員会名	教育民生委員会		
報告書作成者	副委員長 深水 隆司		
出席者氏名	委員長 鈴木 達夫		副委員長 深水 隆司
	委 員	中島 雅代	福沢 美由紀
	森 美和子		櫻井 清蔵
欠席者氏名	なし		
所管職員氏名	子ども未来部長 高宮 綾子	随行職員氏名	議会事務局 主幹 西口 幸伸

視 察 日	視 察 先	視 察 目 的
7月28日	岐阜県海津市	海津市こども未来館 ZúTTo
	愛知県田原市	田原市親子交流館すくっと
7月29日	三重県四日市市	NPO 法人 体験ひろばこどもスペース四日市
	三重県津市	こどもまんなか社会実現会議(お城公園こども遊び場づくり事業等)

令和7年7月28日から29日にかけて、岐阜県海津市、愛知県田原市、NPO 法人 体験ひろばこどもスペース四日市及び三重県津市を訪問し、行政視察を実施したので、その概要を次のとおり報告する。

海津市、田原市、NPO 法人 体験ひろばこどもスペース四日市においては、子どもの育ちを支える場として子育て支援等の機能を持たせた施設について、また、三重県津市においては、子どもの意見を取り入れる会議体を設置するなどの先進的な取組について、視察を実施した。

【海津市こども未来館 ZuTTo】

施設設置の背景

市長就任時の政策目標「子育て世代に選ばれるまちづくり」を実現する上で、海津市第2次総合計画後期基本計画において、「子育て支援の充実（切れ目のない子育て支援）」を重点施策の一つに位置付け、子育て支援関連施策を重点的に取り組むこととした。

また、行財政改革の取組において、施設の統廃合・機能転換の検討を進め、旧町それぞれに整備された総合福祉会館のうち、平田総合福祉会館「やすらぎ会館」を子育て支援の拠点施設として機能転換を図り、「海津市こども未来館」とした。

施設の概要

- ・開館日 令和6年11月2日
- ・開館時間 9時から17時まで
- ・休館日 毎週木曜日、12月29日から翌年1月3日まで
- ・構造 鉄骨コンクリート造2階建て
 - 1階 ふれあい広場（こども図書館、カフェスペース、交流スペース、ワーキングスペース、授乳室等）
 - 2階 キッズ広場（チャレンジエリア、アクティブエリア、ロールプレイエリア、ベビーエリア、授乳室等）
- ・敷地面積 11,922.84 m²
- ・延床面積 1,839.48 m²
- ・主な利用料金（キッズ広場）

3歳未満	市内：無料、市外：100円
3歳以上	市内：300円、市外：400円
- ・特徴 プレイリーダー（幼児の発達を促す運動遊びの知識を有する者）の配置、ボーネルンドの遊具設置

施設改修に係る財源の内訳及び運営経費

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・事業費合計 | 480,769,400 円 |
| (内訳) | |
| 基本計画・基本設計・実施設計費 | 21,780,000 円 |
| 建築工事費 | 442,919,400 円 |
| 工事監理費 | 5,478,000 円 |
| 備品購入費 | 10,592,000 円 |
| ・運営経費等合計 | 52,667,000 円 |
| (内訳) | |

維持管理費	25,201,000 円
イベント企画運営委託料	500,000 円
屋内遊戯施設運営委託料	26,966,000 円

・ 地方債等の主な財源

過疎債	61,400,000 円
合併特例債	291,900,000 円
ぎふ県産材利用促進施設等整備事業	2,490,000 円

職員体制

こども未来館・こども図書館	館長（市職員）	1 名
平田支所兼務職員	事務職（市職員）	1 名
こども未来館	施設管理業務員（会計年度任用職員）	5 名
こども図書館	図書館司書（会計年度任用職員）	1 名
キッズ広場運営スタッフ	委託社員・アルバイト（飛騨五木株式会社）	15 名

利用者の状況

開館から令和 7 年 7 月 27 日までの 2 階キッズ広場利用者数 38,496 人

利用者の割合 市内 16.2% 市外 83.8%

平日は 3 歳未満の親子利用が多く、休日は 3 歳以上の親子利用が多い。

中高生を対象とする機能等

1 階ふれあい広場は、無料エリアとなっており、年齢を問わず誰でも利用できる。
2 階キッズ広場は、小学校 6 年生までの子どもと保護者が有料で利用できる。なお、中高生の利用はできない。

また、こども未来館では外遊びの取組は現在行っていない。

【所 感】

- ・ 福祉会館から子育ての拠点施設へ機能転換を図り、社会環境が変化する中で、「福祉」から「子育て」へという市長の強い思いが感じられる。
- ・ 中高生の居場所の機能と財源確保については、今後の課題である。
- ・ こども図書館はただ本が置いてあるだけでなく司書もあり、本館や県立図書館との連携も取れる図書館であることが素晴らしい。こども図書館は大いに参考にすべき事例だと思う。



【田原市親子交流館すくっと】

施設設置の背景

市は、三河田原駅前工場跡地の活用について、株式会社あつまるタウン田原と連携し、住民の意向に沿った活用を図っていく方針としている。このことを受けて、三河田原駅前には、商業施設、まちなか広場が整備されるとともに、子育て世代包括支援センターの機能を持たせた親子交流施設「田原市親子交流館すくっと」が整備された。

施設の概要

- ・開館日 平成31年4月22日
- ・開館時間 8時30分から21時まで
- ・休館日 毎週水曜日、12月28日から翌年1月4日まで
- ・構造 鉄骨造2階建て
 - 1階 妊娠・出産・子育て総合相談窓口、遊び場コーナー、妊産婦相談室、授乳室、子育て支援センター、一時預かりルーム等
 - 2階 ネット遊具、ボルタリング、マルチスタジオ（貸室）、カルチャールーム（貸室）等
- ・敷地面積 8,692 m²
- ・延床面積 1,480.17 m²
- ・主な利用料金（遊び場コーナー等） 無料
なお、貸室と一時預かりルームは有料
- ・特徴 保育士資格を有する子育てコンシェルジュ配置、一時預かりサービス、子育て支援センター機能、妊娠・出産・子育て総合相談窓口設置、各種支援によるワンストップサービス提供

施設設置に係る財源の内訳及び運営経費

- ・事業費合計 1,616,000,000 円
(内訳)
 - 全体基本設計 7,000,000 円
 - 用地費 667,000,000 円
 - 外部駐車場 37,000,000 円
 - まちなか広場 168,000,000 円
 - 親子交流館 737,000,000 円
- ・運営経費等合計 19,691,468 円
(内訳)
 - 報酬 6,492,160 円
 - 職員手当等 710,120 円
 - 需用費 7,426,580 円
 - 委託料 4,408,671 円
 - その他諸経費 633,937 円
- ・地方債等の主な財源
 - 市債 1,222,000,000 円
 - 社会資本整備総合交付金
(都市再生整備計画事業) 394,000,000 円

<参考>

子育て世代包括支援センター運営事業（子育て）	6,842,779 円
子育て世代包括支援センター運営事業（妊娠出産）	9,534,703 円
出産・子育て応援事業	30,103,832 円

職員体制

単位：人	施設管理	施設管理 （夜間）	看護職	保育士	合計
正規	3	0	2	2	7
再任用	0	0	0	1	1
会計年度	2	8	2	7	19
合計	5	8	4	10	27

利用者の状況（令和5年度）

入館者数 183,508 人

貸室：マルチスタジオ利用 621 件、カルチャールーム利用 261 件

親子交流館の遊具利用については、保護者の責任のもとに利用している。子どもだけで遊ぶことはできない。また、3歳から小学校低学年の世帯での利用が多い。

夜間の利用状況

夜間は、貸室、ボルダリング設備の利用できるが、遊び場コーナーでの親子の利用が終了しているため、施設利用者は多くない。

中高生を対象とする機能等

中高生は貸室（マルチスタジオ・カルチャールーム）、ボルダリング設備、ラウンジ（学習）の利用がある。また、中高生は市立図書館を利用することが多い。

なお、親子交流館では外遊びの取組はない。

【所 感】

- ・親が安心して子どもの遊ぶ姿を見守ることができ、親同士が交流できる環境が整備されている素晴らしい施設である。
- ・子育ての総合相談窓口、相談室、一時預かり、子育て支援センター機能が備わっており、各種支援がワンストップで受けることができる利便性の高い施設である。
- ・保育士、保健師、助産師などの看護職が配置された充実した施設である。
- ・中高生の学習スペースと幼児のスペースがほどよい距離感で配置されており、お互いに子どもたちには良い影響を与える環境がある。
- ・子育ての大切なところを直営で市の職員が関わることは、親にとってとてもありがたいことである。



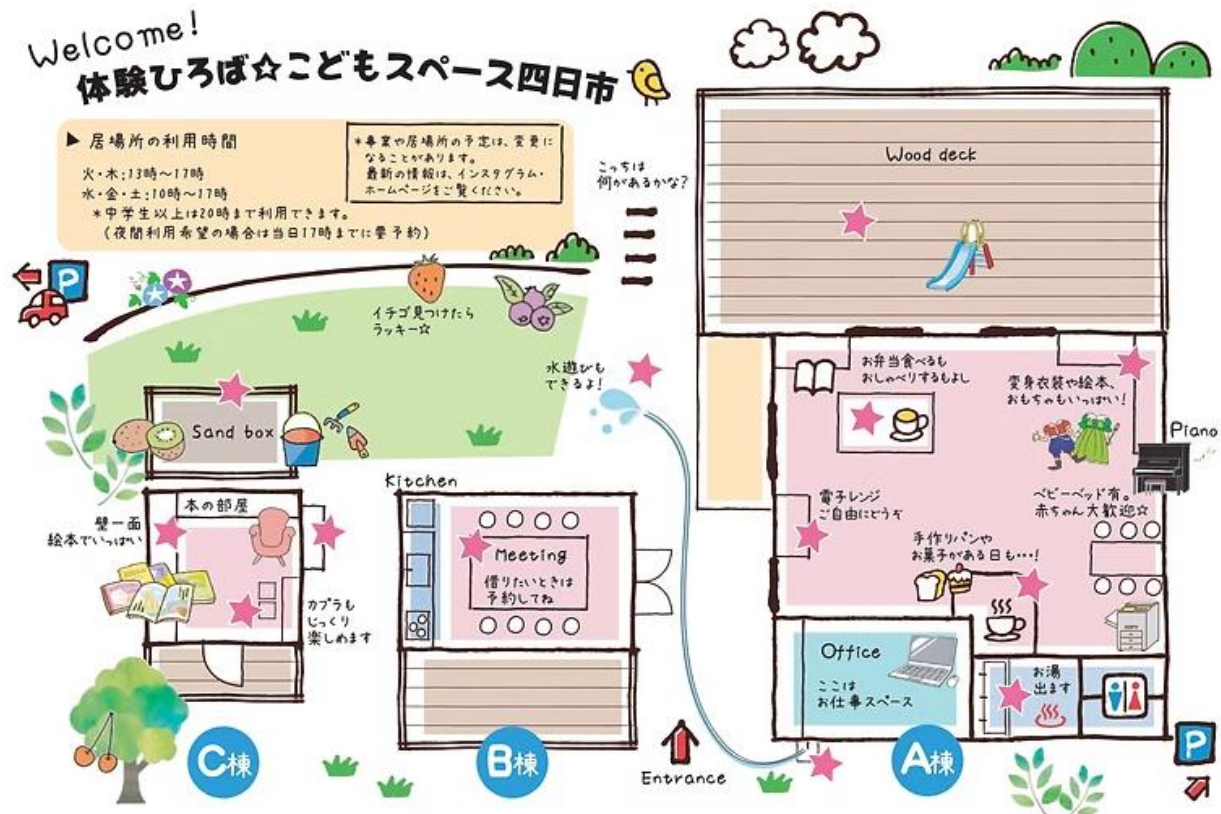
【NPO 法人 体験ひろばこどもスペース四日市】

法人設立の背景

1972年に四日市子ども劇場から取組がスタートしている。現在の事務所は子どもたちと一緒に設計・建築を行った。体験ひろばこどもスペース四日市では、子どもの権利条約に基づき、0歳から大人までの体験を提供している。子どもを取り巻く大人たちを支援するとともに、子どもに敬意をもって接し、たくさんの人との出会いを作る中で、文化芸術体験を始めた。多様な生活体験、社会体験の機会を創造していくことで、最終的に親と子どもの自立につなげていく活動を展開している。

居場所の概要

- ・開設日 平成14年
- ・開設時間 火・木曜日14時から20時まで、水・金・土曜日10時から20時まで
- ・閉所日 月・日曜日、祝日
- ・子ども体験の取組 プレイセンター、あそぼーの、トムソーヤの森の家（自然体験）、ダンスワークショップ、こども会議等
なお、他に文化芸術体験事業や子育て支援の取組がある。
- ・主な利用料金 無料
- ・特徴 子どもの権利条約の理念を大切に活動を展開している。
- ・施設概要図



体験ひろば☆こどもスペース四日市HP引用

居場所設置に係る財源の内訳及び運営経費

- ・ 事務所建設費 15,000,000 円 運営中心メンバーからの出資と約 300 名からの寄付
- ・ 運営する上での財源確保（四日市市委託事業、三重県等との協働事業）
四日市市ファミリー・サポート・センター事業
こんにちは赤ちゃん訪問事業
NPO法人チャイルドヘルプラインMIEネットワーク
児童養護施設入所児童への学習支援事業

職員体制

スタッフは現在 35 名から 40 名である。その他にボランティアで活動に関わる方もいるため、全体で 100 名程度が関わりを持っている。なお、運営の中心は、60 代から 70 代のスタッフである。

スタッフの人件費（活動費）は市の委託事業から分配している。

看護師、保育士資格の保有だけでなく、資質を高める研修を実施している。

利用者の状況（令和 6 年度）

居場所利用者 506 名（子ども 319 名、大人 162 名、中高生 25 名）
運営スタッフ 4, 214 名

中高生を対象とする機能等

中高生になると忙しいので、活動に参加するのが難しくなる。一部の中高生は、ダンスワークショップへの参加やトムソーヤの森の家にボランティアで関わるケースがある。

【所 感】

- ・ 子どもが自由に生きるために、子どもの権利を尊重し、芸術や自然に触れることができる環境があり、真に子どもの居場所を提供できている。
- ・ 利用者がスタッフとなるような仕組みができており、利用者が学びながらスタッフとしての資質を向上させることができる。また、中学生がボランティアとして関わり、その子たちの居場所につながっている。
- ・ 子どもたちとともに手作りで建てられた施設であり、夢中で遊んでいる子どもの姿を見て、本当に居心地の良い施設であると感じる。
- ・ こどもたちがたった 1 度しかないこども時代を豊かに過ごすことを願って作られた素晴らしい居場所である。



【こどもまんなか社会実現会議(お城公園こども遊び場づくり事業等)】

取組の概要

津市は令和7年3月にこども計画を策定した。計画に基づき、こどもまんなか社会をつくるためには、こどもや若者の皆さんの意見を聴きながら、一緒に進めていくことが大切である。

そこで、こども・若者、子育て当事者の意見表明の仕組みとして、「総合会議」、「こども会議」、「事業推進会議」の3つの会議で構成される津市こどもまんなか社会実現会議を作り、市政に意見を反映する。

総合会議は、小学生から高校生までのこども6名、大学生や子育てをしていない若者7名、こどもがいる子育て当事者6名で構成し、「こどもまんなか社会を実現するために」をテーマに話し合う場である。

こども会議は、小学生、中学生、高校生の各4名程度で構成し、「幸せに暮らせるまちってどんなまち」をテーマに意見をまとめて発表する場である。

事業推進会議は、お城公園こども遊び場づくり事業と久居こどもの遊び場づくり事業をテーマに、市民が事業実現に向けて進めていく会議である。

なお、この取組は、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）の採択事業となっている。

こども遊び場づくり事業

○お城公園こども遊び場づくり事業

旧社会福祉センターの跡地とその横にある児童広場を活用し、こどもの遊び場を新設する。津城跡の天守台跡地の景観と併せて、楽しめる公園への再生を検討する。

会議開催回数：5回 延べ会議参加人数：173人

○久居こどもの遊び場づくり事業

オープンして34年が経過し、老朽化が進む久居中央スポーツ公園内プールを廃止する。こどもが遊びを創造し、遊びを通じて「出来た」が体験できる、こどもを中心に新たな人のつながりを生む場所への再生を検討する。

会議開催回数：7回 延べ会議参加人数：354人

【所感】

- ・こどもの遊び場づくり事業に対して子どもたちが設計段階から関わり、このような経験は子どもたちにとってかけがえのないものとなると感じた。
- ・事業を進める上で、子どもの意見を聴く姿勢が強く表れている。市民の意識改革にもつながると感じる。
- ・子ども、若者の意見を聴く仕組みが構築されているのは特徴的である。
- ・市長がこの事業にしっかりと関わり、喜び、市民に心からのアピールを行なっていることに驚いた。市民に本気度が伝わり市民も本気で取り組むことができるのだと思う。



【視察全体を通じた総括】

- ・ こども施策全体の強力な推進には、首長の判断が大変重要な役割を果たすと感じた。
- ・ こどもまんなか社会実現会議のように施設の利用者である子ども、若者の意見を聴く新たな手法を検討する必要がある。
- ・ 子どもの権利を尊重し、大人が決めるのではなく、子どもの自主性を重んじ、いきいきと楽しく成長できる居場所を提案することで、市の施策につなげることが重要である。
- ・ 中高生の居場所は、いずれの市でも苦慮しているところがある。中高生は勉強に、部活に忙しい状況にあり、居場所としてどのようなものが良いのか深堀りしていく必要がある。
- ・ 誰もが利用できる施設、子どもの居場所とするためには、子どもの発達等の専門家を配置する必要性を感じた。